

予 算 要 求 資 料

令和 8 年度当初予算

支出科目 款：総務費 項：企画開発費 目：スポーツ振興対策費

事業名 金藤理絵メモリアルカップ開催事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

観光文化スポーツ部 地域スポーツ課 スポーツ交流係 電話番号：058-297-1836 (2620)

E-mail：c11172@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 8,988 千円 (前年度予算額： 8,988 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	8,988	0	0	0	0	0	0	0	8,988
要求額	8,988	0	0	0	0	0	0	0	8,988
決定額	8,988	0	0	0	0	0	0	0	8,988

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

- ぎふ清流国体開催時から本県所属選手として活躍、その後リオデジャネイロオリンピックで金メダルを獲得された金藤理絵氏の栄誉を讃えるとともに、その知名度を活かし、水泳競技の競技力向上のみならず、幅広い世代における水泳の裾野拡大を図り、県内のスポーツ振興を目的に大会を開催する。

(2) 事業内容

- 幅広い世代を対象とした水泳大会を開催
- また、水泳の裾野拡大のため、これまで大会に参加したことのない水泳初心者を対象とした記録会を同時に開催

①大会概要

大会名：RIE KANETO Memorial Cup 2026
主 催：岐阜県、一般社団法人岐阜県水泳連盟
会 場：長良川スイミングプラザ
参加者：県内希望者(競技登録者＋非登録者)

②役割分担

県：開会式や大会の盛り上げ等の側面支援、記録会運営
県水泳連盟：大会運営

(3) 県負担・補助率の考え方

- 県民が水泳を通じてスポーツに触れる機会を創出していくためには、県での費用負担が妥当

(4) 類似事業の有無
なし

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
委託料	8,988	会場設備、記録会運営など
合計	8,988	

決定額の考え方

4 参 考 事 項

(1) 各種計画での位置づけ
清流の国ぎふスポーツ推進計画

(2) 事業主体及びその妥当性

- ・ (一社) 岐阜県水泳連盟との共催であり、県が実施することは妥当である。

事業評価調書（県単独補助金除く）

☐ 新規要求事業

☒ 継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

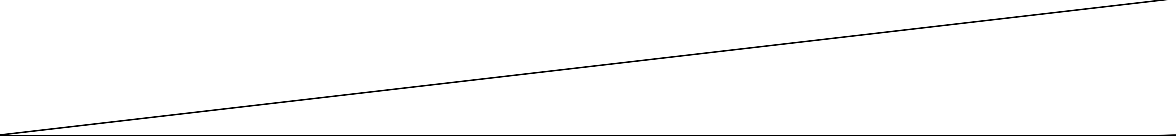
・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

RIE KANETO Memorial Cup を水泳競技の競技力向上のみならず、幅広い世代における水泳の裾野拡大に資する大会にする。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 —	R6年度 実績	R7年度 目標	R8年度 目標	終期目標 (R8)	達成率
①参加選手人数	—	537	700	700	700	76.7%

（これまでの取組内容と成果）

令和4年度	
令和5年度	<p>指標① 目標：_____ 実績：_____ 達成率：_____ %</p> <ul style="list-style-type: none"> ・（一社）県水泳連盟が大会主催者、岐阜県が共催で大会運営。 ・県水連会長が大会会長、金藤理絵氏が名誉会長、県知事が特別顧問を務める。 ・ジュニア世代（小中高校生）526人、社会人94名の合計620人が参加。 ・ジュニア21種目、社会人13種目の競技を実施し、ジュニア選手はJOCジュニアオリンピックの予選会も兼ねた新たな大会を設置。 ・金藤氏にプレゼンターを依頼し、金藤氏からジュニア選手へ記録賞の配布、最優秀選手（金藤杯）へ副賞を授与。また、休憩時間に泳ぎを披露するデモンストラーションを実施。 <p>指標① 目標：700人 実績：620人 達成率：88.6%</p>
令和6年度	<ul style="list-style-type: none"> ・（一社）県水泳連盟が大会主催者、岐阜県が共催で大会運営。 ・県水連会長が大会会長、金藤理絵氏が名誉会長、県知事が特別顧問を務める。 ・ジュニア世代（小中高校生）537人が参加。 ・ジュニア世代に絞って大会を開催。 ・金藤氏にプレゼンターを依頼し、金藤氏から選手へ記録賞の配布、最優秀選手（金藤杯）へ副賞を授与。 <p>指標① 目標：700人 実績：537人 達成率：76.7%</p>

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない	
(評価) 3	・第2期スポーツ振興計画において次世代アスリートの発掘・育成・強化は重点施策の一つであり、その取組の充実が不可欠である。 ・水泳は小学生における習い事の一番の人気種目ではあるが、中学生期には水泳離れが著しく、一層ジュニア世代の普及、育成が重要である。
・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない	
(評価) 2	・金藤氏との触れ合い、交流の場を設定することで、参加者の意欲化につながっている。 ・大会後のアンケート結果からも選手や保護者から高評価を得ている。
・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている	
(評価) 2	・金藤氏の意向を反映させ、県水泳連盟の大会運営は、選手や観覧者のニーズに対応した取組の拡充が行われている。

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項 ジュニア世代を中心として幅広い世代の参加者にとっても魅力的な大会となり、なおかつ持続可能な運営方法を県水連と協議していく必要がある。
--

(次年度の方向性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 大会後のアンケート結果を踏まえ、県水連や金藤氏との協議を重ね大会の運営方法や参加者の増員につながる取組を充実させていく。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	【〇〇課】
組み合わせて実施する理由 や期待する効果 など	